

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												旋毛虫症	ProMED-mail 20070713.2242	旋毛虫症の発生は、ドイツに接している北西部ポーランドの地域のZachodniopomorskie Voivodeship (West Pomerania)で拡大中で、2007年7月12日までに、201人が感染した。発生は、2007年6月9日にKamien Pomorskiで地元の公衆衛生部門に最初に通知され、4人が旋毛虫幼虫感染を示唆する、熱、関節痛、眼窩周囲と顔の浮腫、嘔吐などの臨床症状で入院した。60の血清検体中28検体が抗旋毛虫抗体陽性であった。肉製品を製造している一つの製造者が発生源と確認され、この肉処理工場は2007年6月15日に閉鎖された、そして、2007年の5月と6月にそこで生産されたすべての肉製品は店と倉庫から回収された。
												レンサ球菌 感染	THE PIG SITE 2007年7月27日	少なくとも更に4人のベトナム人が、今年この国で26人が感染した珍しいブタ病に罹ったと、ベトナム熱帯伝染病研究所が報告した。患者の大部分はブタ由来のブタ連鎖球菌(これまでに26人のうち2人が死亡している)に感染後9~10日目に重症で入院した。ほとんどの患者が生活のためにブタを屠殺したり、ブタ肉を加工、販売しているが、ブタの血液由来の食品(それはベトナムの田舎では全く一般的である)を食べることによって感染した患者もいた。さらに、ベトナムでは約30000頭のブタが青耳病(ブタ生殖呼吸症候群)に感染していると伝えられている。
												レンサ球菌 感染	ProMED-mail20070823.275 6	2007年8月12-14日にWisconsin州Madisonで開催されたヒトへ伝染する自然界の病気に関する国際会議で、ブタ連鎖球菌が、人畜共通病原体として過少報告されるか誤診されるかの調査結果が報告された。1968年にデンマークで最初のヒト感染症例が報告された後、東南アジアでは普通にみられ、英国、オランダ、ドイツ、クロアチア、ニュージーランドおよびギリシャで孤発性ヒト症例が報告されている。米国での最初のヒト症例は2006年に報告された。中国の2005年の発生では、200人以上が感染し、死亡率は約20%であった。豚と密接に接触するヒトの間で、現在認識されている以上の頻度でヒトに感染すると結論付けた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	ProMED-mail20070828.2824	ハノイのベトナム熱帯伝染病研究所は、ヒトにおけるブタ連鎖球菌 (<i>Streptococcus suis</i>) 感染を診断する能力を新しく開発した。ヒトにおける <i>S. suis</i> 感染症例数の増加が、PRRS(ブタ生殖呼吸症候群) の発生に関連するかまたは以前にはベトナム北部にはなかった良い検出システムに関連するかは不明である。同国南部のホーチミン市の病院ではヒトの <i>S. suis</i> ベトナム株を分離し、特徴を調べた結果、 <i>S. suis</i> は同国における成人の髄膜炎の主要な原因の一つであると思われた。
												日本脳炎	ProMED-mail 20070829.2839	インド保健省は、2007年8月16日までに、インドの9つの州で日本脳炎837例を確認し、185人が死亡したと報告した。日本脳炎は中枢神経系に影響を及ぼし、麻痺、昏睡のような重篤な合併症や最終的に死亡の原因となる。WHOによると、この病気の致死率は最高30パーセントで、生き残った人々も終身身体障害者になる可能性がある。蚊が日本脳炎の根本の原因であるが、ウマとブタがウイルスの保有宿主である。田舎の人々がブタの近くで生活していることも原因の一つであるが、ワクチンの不足が問題である。
												E型肝炎	ProMED-mail 2007年9月3日	E型肝炎ウイルス感染は妊婦で致命的となるおそれがあるが、最近までは中国、インド、ならびに発展途上国に限定されると考えられていた。今ではヨーロッパ人もHEVに感染していると2007年9月3日に第161回General Microbiology学会で報告された。HEV由来の遺伝物質は日本、米国およびオランダで販売されているブタの肝臓で検出されている。野生のイノシシ製品も同様の危険性を持っている。現在の診断の割合は欧州諸国における急性ウイルス性肝炎患者の13%に達するが、実際にはより高いと思われる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レプトスピラ症	ProMED-mail20071016.3383	保健環境省はレプトスピラ症100症例を確認したと発表した。レプトスピラ症は、スピロヘータLeptospiraに起因する人畜共通感染症で、それは、通常、断続的または継続的に病原体を排出する無症候性キャリア動物(例えば齧歯類、イヌ、ブタ、およびウシ)から、ヒトに感染する。レプトスピラ症はジャマイカの風土病で、秋の豪雨の洪水後に発生する。実際、レプトスピラ症は家畜(ブタ、ウシおよびヤギ)で血清学的に証明され、Leptospiraがジャマイカで土と水のサンプルから分離された。
												ブドウ球菌感染	PIG PROGRESS 2007年11月8日	調査の結果、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の感染源が養豚場である可能性が示された。この致死性細菌は、かつては病院内感染だけだと思われたが、米国では2005年に死亡例が19000人に達し、HIV/AIDSでの死亡例より約2000人多かった。2007年の新しい調査では、オンタリオの20の農場のうち45%で、ほぼ5人に1人の農民と4匹に1匹のブタでMRSAを確認した。ヨーロッパの研究では、日常的な養豚場での抗生物質の使用がMRSAの可能性を増やすことを示している。また米国の獣医はMRSAの保菌者である。
												ブドウ球菌感染	THE PIG SITE 2007年11月7日	Vet. Microbiolに発表されたKhannaらの研究は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)がカナダの養豚場および養豚家で流行していることを初めて明らかにした。オンタリオの20の農場のブタ285匹を調べた結果、45%の農場(9/20)で、4匹のブタに付きほぼ1匹(71/285)でMRSAを検出した。また養豚家5人に付き1人(5/25)がMRSAのキャリアであった。これは一般的な北米人より大いに高い比率である。オンタリオのブタおよび養豚家で検出されたMRSA株はカナダでのヒトMRSA感染に共通する株を含んでいた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(ET)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20071219.4079	米国の農場で病気にかかったブタから分離された遺伝的に類似したトリ/ブタウイルスリアソータントH2N3インフルエンザA型ウイルスを分離して、特徴づけた。これらのウイルスは実験で感染させたブタとマウスで病気を引き起こすことができた。そのうえ、ブタH2N3ウイルスは、伝染性で、ブタとフェレットで高い感染性を示した。これらの知見は、H2N3ウイルスが哺乳類の宿主へ適合を経験していること、そして、彼らの蔓延が非常に嚴重に監視されなければならないことを示唆する。
												鳥インフルエンザ	PIG PROGRESS 2007年12月20日	ブタインフルエンザの新しい種H2N3が同定された。それは1957年の世界的流行時にヒトに感染したH2インフルエンザウイルスのグループに属し、トリとブタのインフルエンザウイルス遺伝子から構成されている。H2N3インフルエンザウイルスが哺乳類で検出されたのは初めてである。このH2N3ウイルスはマウスとフェレットにも感染性を示した。ブタが、トリ、ブタおよびヒトがキャリアとなるインフルエンザウイルスの「混合容器」である可能性が示された。
15	2008/2/6	78040	生化学工業株式会社	ブタ歯胚組織使用歯周組織再生用材料	エナメルマトリックスデリバティブ	幼若ブタの歯胚	スウェーデン	組成・構造	有	無	無	サルモネラ症	J Antimicrob Chemother 2007; 60: 398-401	メキシコYucatanにおける多剤耐性(MDR)ネズミチフス菌の伝播について調べた。プラスミド介在性blaCMY-2 AmpCβラクタマーゼを含むMDRネズミチフス菌は2000-2001年の0%(0/27)から2004-2005年の75%(63/84)に有意に増加した。MDR blaCMY-2ネズミチフス菌(N=115)は病気の小児(44.3%)および豚肉または豚の腸(36.5%)に最もよく見られた。同菌に感染した小児(n=39)では非MDRサルモネラ菌を有する小児(n=24)より全身感染(13% vs 0%)、死亡(8% vs 0%)および遷延性下痢による再入院(28% vs 17%)の頻度が高かった。メキシコではMDR blaCMY-2ネズミチフス菌が急速に広範囲にわたって伝播しており、緊急の対策が必要である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
16	2008/2/7	78041	東洋紡績株式会社	滅菌済み開心術用チューブ及びカテーテル膜型人工肺補助循環装置	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2007年8月31日	2003年から2007年8月31日までのWHOに報告されたトリインフルエンザA (H5N1)の確定ヒト症例数は、計327例(死亡199例)である。2007年はカンボジアで1例(死亡1例)、中国で3例(死亡2例)、エジプトで20例(死亡5例)、インドネシアで30例(死亡26例)、ラオスで2例(死亡2例)、ナイジェリアで1例(死亡1例)、ベトナムで7例(死亡4例)が報告され、合計症例数は64例(死亡41例)である。
17	2008/2/8	78042	平和物産株式会社	人工心肺用血液回路	ヘパリン	豚小腸	イタリア	組成・構造	無	無	無			
18	2008/2/20	78043	ガンプロ株式会社	ヘパリン使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル	ヘパリンナトリウム	豚腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	鳥インフルエンザ	国立感染症研究所感染症情報センター 高病原性鳥インフルエンザ 2007年12月6日	2007年12月4日付け、WHO更新情報によると、中国保健省はWHOに対し、H5N1鳥インフルエンザの新たなヒト感染症例を報告した。症例は江蘇省の24才の男性で、11月24日に発症し、11月27日に入院し、12月2日に死亡した。中国での確定例は26例で、うち17例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	国立感染症研究所感染症情報センター 高病原性鳥インフルエンザ 2007年12月10日	2007年12月9日付け、WHO更新情報によると、中国保健省はWHOに対し、H5N1鳥インフルエンザの新たなヒト感染症例を報告した。江蘇省の52才の男性で、12月2日に同ウイルス感染で死亡した24才男性の父親である。男性は国家当局によって医学的観察下に置かれていた濃厚接触者のうちの一人である。男性は12月3日に発症し、現在入院中である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
19	2008/2/25	78044	ニプロ株式会社	ヘパリン使用体内植込み用カテーテル ヘパリン使用長期的使用注入用植込みポート ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサキット ヘパリン使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル ヘパリン使用体外式膜型人工肺	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	細菌感染	ProMED-mail20071220.4090	2007年12月18日、連邦保健局は少なくとも2つの州で発生した細菌で汚染されたシリンジに関連した血液感染例を調査中であると発表した。テキサスおよびイリノイ州での感染者は約40名で、死亡は確認されていない。原因を調査したところ、ヘパリンシリンジが汚染されていたためと考えられた。Sierra Pre-Filled社の特定のロットでSerratia marcescensが検出された。該当ロットはコロラド、フロリダ、ペンシルベニアにも出荷されているが、現在のところテキサスとイリノイでのみ感染が発生している。同社は該当ロットを自主的に回収している。
												細菌感染	ProMED-mail20071222.4112	フロリダ保健局はヘパリンシリンジに関連するものと思われる2例を含む血液感染の発生を調査中である。Sierraプレフィルドヘパリンシリンジの特定のロット(Lot No. 070926H)からSerratia marcescensが検出された。当初、感染はイリノイとテキサスでのみ発生したが、フロリダが3番目の州となった。
												感染	ProMED-mail20080118.0226	インジアナ州の豚肉加工場従業員2名がミネソタ州の精肉業者を襲った原因不明の疾患と同じ症状を発症した。インジアナの従業員も、ミネソタの作業員と同様に、ブタの頭から脳を吹き飛ばすために使用する強力な空気圧縮装置の近くに配置されていた。彼らは手足の疲労感、麻痺および疼きといった炎症性神経症状の顕著な特徴を示した。飛散したブタの脳がこの病気の原因となった可能性がある。この工程は現在は使われていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
20	2008/2/29	78045	株式会社ジェイ・エム・エス	ヘパリン使用人工心肺回路システム ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用チューブ接続用コネクタ ヘパリン使用単回使用人工心肺用熱交換器 ヘパリン使用体外式膜型人工肺 ヘパリン使用心臓血管縫合補助具 ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ	ヘパリン	ブタ腸管粘膜	スペイン	組成・構造	有	無	無	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870	カナダの共同農場で生活していた7ヶ月齢の乳児から、A/Canada/1158/2006と名づけられたブタインフルエンザウイルス(H3N2)が単離された。この農場のメンバー90名のうち54名で同ウイルスに対する血清学的検査を行ったところ、54名中9名が陽性であった。また、ブタ10頭のうち1頭で血清陽性が明らかになった。ブタインフルエンザウイルス株は効率的にヒトからヒトへ伝染する形に適応または交雑することから、インフルエンザ流行への備えの一環として養豚者の定期的サーベイランスを検討すべきである。
												インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1871-1878	2004年に、アイオワ州の田舎の住民803名を対象としてインフルエンザウイルス人畜共通感染に関する2年間の前向き研究を行った。アイオワ大学のブタ非曝露者79名と比較して、ブタ曝露者およびその配偶者は、ブタインフルエンザ(H1N1)ウイルスに対する抗体レベルが増加していた。更に、インフルエンザ様疾患データや組換えH1N1ウイルス分離などから、職業的ブタインフルエンザウイルス感染のエビデンスが示された。
												感染	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、ミネソタ保健局はMinnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患について通報を受けた。州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、同施設では12名(年齢中央値31歳、25-51歳)の作業員が進行性炎症性神経障害と同定された。2006年11月から2007年11月にかけて、ブタ頭部処理に関わったヒトで発症した。原因は特定されていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Vet Microbiol 2007; 125: 175-181	フィンランドにおけるブタおよびヒトMycobacterium avium complex 分離株の遺伝的関係を調べた。ブタの器官16例および臨床検体13例から分離されたM. avium株をIS1245 RFLP分析で比較した結果、ブタ株2株とヒト株2株のRFLPパターンは95%以上の相同性を示した。ヒトとブタのM. a. hominissuis分離株の高い相同性は遺伝的関連性の近さを示し、M. a. hominissuisがブタとヒト間を伝播している、あるいはブタとヒトが共通の環境感染源を共有していることを示唆している。
												E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2007; 77: 893-896	屠殺場の作業員において検出されたE型肝炎感染の初症例を報告する。同定されたウイルスはジェノタイプ3、サブタイプ3fiに属していた。患者の血清から分離されたウイルスの部分的配列解析によって、ヨーロッパのヒト株およびブタ株とのヌクレオチド相同性がそれぞれ83.4%-97.3%の範囲であることが明らかとなった。これらの所見は、ブタの感染器官の取り扱いを介して職業病としてE型肝炎ウイルスに感染したことを強く示唆する。
												E型肝炎	獣医畜産新報 2007; 1033: 658-663	佐賀県内の母豚、肥育牛、子牛、野生イノシシのE型肝炎ウイルスの感染状況を調査した結果、母豚22頭のうち1頭の大腸内容物および野生イノシシ59頭のうち1頭の血清からE型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子解析の結果、母豚由来のウイルスは遺伝子型IIIに分類され、仙台および米国のE型肝炎患者由来のウイルスに最も類似していた。国内で発生したヒトのE型肝炎は人畜共通感染症である可能性が示唆された。
												E型肝炎	Scand J Infect Dis 2007; 39: 454-456	渡航経験もなく、渡航経験のある者との接触もなく、E型肝炎を発症し、オランダ国内における感染が示唆される患者2例について報告した。オランダの田舎では生の豚肉を食べることを好むことから、生の豚肉の摂取がHEVによる肝炎と関連している可能性があることが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
21	2008/3/6	78046	ユニチカ株式会社	ウロキナーゼ使用中心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用 緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル ウロキナーゼ使用胸部排液用チューブ ウロキナーゼ使用オプチュレータ	ウロキナーゼ	人尿	中華人民共和国	組成・構造	無	無	無			
22	2008/3/6	78047	日本シャーウッド株式会社	ウロキナーゼ使用中心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用胸部排液用チューブ ウロキナーゼ使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル	ウロキナーゼ	ヒト尿	中華人民共和国	製造工程	無	無	無			
23	2008/3/11	78048	株式会社ウベ循環	ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用体内植込み用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2007; 77: 893-896	屠殺場の作業員において検出されたE型肝炎感染の初症例を報告する。同定されたウイルスはジェノタイプ3、サブタイプ3fiに属していた。患者の血清から分離されたウイルスの部分的配列解析によって、ヨーロッパのヒト株およびブタ株とのヌクレオチド相同性がそれぞれ83.4%-97.3%の範囲であることが明らかとなった。これらの所見は、ブタの感染器官の取り扱いを介して職業病としてE型肝炎ウイルスに感染したことを強く示唆する。
												C型肝炎	Infect Control Hosp Epidemiol 2008; 29: 83-85.	スウェーデンの大学病院の胃腸病科の患者515名を対象にC型肝炎の院内感染発生に関する前向き研究を行った。入院時および入院後3-6ヶ月目に採血し、血漿中のHCV抗体およびHCV RNA検査を行った。一般的な予防措置は実施されており、頻回使用バイアルは禁止されていた。HCVの院内感染と関連するいくつかの危険因子に対する5,964の暴露日にもかかわらず、C型肝炎症例は発生しなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	Eur J Gastroenterol Hepatol 2008; 20: 73-78.	2つの異なるセンターで消化管内視鏡検査と造影増強型CTを受けた患者に発生した急性C型肝炎の2症例を調査した。感染源を同定するために、診断手順の現地調査、医療関係者のインタビュー、前後に検査を受けた患者の血清学的検査ならびに患者及び潜在的なウイルス血源からのウイルス分離株の分子分析を行った。疫学的調査の結果、当該症例の直前にCTスキャンを受けたHCVキャリアが同定された。HCV配列の分子系統遺伝学的分析の結果、キャリア由来の分離株と当該症例由来の分離株とは近縁であることが示された。造影増強型CTスキャン中にHCVの院内患者間感染が起きたことを明らかにした初めての報告である。
												感染	CDC/MMWR 2008; 57(05): 122-124	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、ミネソタ保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害(PIN)症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。従業員500名以上のブタ処理施設25ヶ所を調査した結果、同様のブタ頭部処理装置を使用している施設は当該施設、ネブラスカおよびインディアナの施設の3ヶ所であり、インディアナの施設の従業員数名が同様の神経疾患を発症した。現在、この装置の使用は全て中止されている。
24	2008/3/12	78049	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社	ヘパリン使用サーモダイリユーション用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	米国、中国及びカナダ	組成・構造	無	無	無			
25	2008/3/17	78050	東レ株式会社	①植込み型医薬品注入器 ②その他の外科・整形外科用手術材料(涙液・涙道シリコンチューブ) ③滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル ④滅菌済み体内植込みチューブ及びカテーテル ⑤合成樹脂製人工血管	ヘパリンナトリウム	豚腸粘膜	①④ブラジル、中国 ②ブラジル ③⑤中国	組成・構造	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
26	2008/3/27	78051	エドワーズライフサイエンス株式会社	①ヘパリン使用静脈用カテーテルイントロデューサ ②ヘパリン使用サーモダリレーション用カテーテル ③ヘパリン使用バルーン付ペーシング向け循環器用カテーテル ④ヘパリン使用静脈用カテーテルイントロデューサキット ⑤ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサキット ⑥ヘパリン使用体外式ペースメーカー用心臓電極 ⑦ヘパリン使用大動脈カニューレ ⑧ヘパリン使用人工心肺用回路 ⑨ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ⑩ヘパリン使用人工心肺用貯血槽	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	①～⑥ 中国 ⑦～⑩ 米国、カナダ	組成・構造	有	無	無	感染	Minnesota Department of Health/ News Release 2007年12月3日	ミネソタ州保健局はオースチンのブタ処理施設 Quality Pork Processors社の従業員における11名の神経疾患について調査中である。最初の症例は2006年12月に発症し、その後数ヶ月間にわたり、2007年7月まで発症した。先週、更に入院中の1名を確認した。筋力の低下や感覚異常を特徴とし、炎症性神経疾患と思われる。死亡例はない。11症例はブタ頭部や臓器の処理場で働いていた。原因は特定されていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
27	2008/3/31	78052	マツケ・ジャパン株式会社	ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ ヘパリン使用冠動脈灌流用カテーテル ヘパリン使用心室カニューレ ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用人工心肺用貯血槽 ヘパリン使用体外式膜型人工肺 ヘパリン使用大静脈カニューレ ヘパリン使用大腿動静脈カニューレ ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用汎用吸引用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	イタリア、中国	添加物	有	無	無	細菌感染	Vet J 2007年12月10日	中国東部で離乳後に下痢または浮腫を発症したブタから分離された大腸菌324株にAIDA-I (adhesin involved in diffuse adhesion I) 遺伝子が存在するかスクリーニングし、AIDA-I陽性株のAIDA-I遺伝子のorfAおよびorfBのヌクレオチド配列分析を行った。その結果、分離株のうち21株(6.5%)がAIDA-I遺伝子を有していた。またブタ大腸菌とヒト大腸菌AIDA-IのorfAは高い相同性を示した。AIDA-Iはブタの離乳後の下痢と浮腫疾患における病原因子となる可能性があり、ブタの大腸菌とヒトの大腸菌の間で移動する可能性があることが示された。
												インフルエンザ	Wei Sheng Wu Xue Bao 2007; 47: 805-809	2005年に中国広東省でインフルエンザ様症状のブタから分離されたH3N2ブタインフルエンザウイルス A/Swine/Guangdon/01/2005の配列分析を行った。系統遺伝学的分析の結果、同ウイルスの基質および非構造遺伝子はH1N1ブタインフルエンザウイルス起源であり、ヘマグルチニン、ノイラミニダーゼおよび他の遺伝子はH3N2ヒトインフルエンザウイルス起源であると考えられた。同ウイルスはH3N2ヒトインフルエンザウイルスと古典的H1N1ブタインフルエンザウイルスの組み換え体である。
												レトロウイルス	Comp Immunol Microbiol Infect Dis 2007 Aug 7	中国ミニチュアブタの7つの飼育場におけるブタ内因性レトロウイルス(PERV)について、大規模な調査を実施した。DNA検体348例の全てにPERVが存在した。遺伝子型別の保有率は、A型74.43%、B型95.40%およびC型30.46%であった。WuzhishanブタおよびBamaミニブタではC型は存在しなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌 感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1-4	Streptococcus suisは東南アジアで発生している人畜共通感染症である。2006年8月までに報告されたヒトのS. suis 感染数は400例に達し、約90%は中国、タイ、香港、台湾およびオランダで発生した。しかし、このデータにはベトナムでの少なくとも200の感染例は含まれていない。血清型2がブタとヒトに対し最も病原性が高いと考えられているが、2001年にS. suis より死亡したベトナム人男性からは血清型16が検出された。S. suis血清型16はヒトに感染する可能性がある。